

1. 派遣概要

■派遣目的

- ①「日中企業家交流会」新設：日中の経済人同士による対話の場を設け、相互理解と両国の関係強化につなげる
- ②政府機関幹部等との懇談：関経連として中国主要機関とのパイプ強化を図る

■時 期：2015年7月13日(月)～15日(水)

■団構成：松下副会長・国際委員長を団長に計20名で構成

■訪問都市：北京

3. 今後の展開

(1)ビジネスチャンスにつながる交流事業の実施

- ①第2回日中企業家交流会(来年度)の企画、②環境・省エネ分野など日本企業に対する期待が大きい分野での交流事業の検討、③地域を絞った交流の検討を行う

(2)継続的交流によるパイプ強化

中日友好協会、外交部、商務部はじめ関係機関との継続的交流を行うことにより関係強化を図る。

2. 会合結果、主な発言内容

①日中企業家交流会

- ◆日 時 2015年7月14日(火)14:00～18:00
- ◆場 所 北京 長富宮飯店 (開催概要は次ページ)
- ◆趣 旨 新しい時代の交流のスタイルとして、日中の経済人同士による率直な議論の場を設け、相互理解と経済交流強化につなげる。
- ◆出席者 日本側 20名(訪中団参加者、日系現地法人代表等)  
中国側 38名(民間企業経営者等)
- ◆テーマ (1)グローバル時代における経営理念の継承と人材育成  
(2)日中企業による新規ビジネス、市場開拓の取り組み



○中国が新常态の下、量から質へ、高度成長から安定成長への構造転換を進めるなか、直面している課題について、中国側から日本の経験に学びたいとの意向が示された(グローバル化、高齢化、「生態文明」(エコロジーを守る文明)、「製造業2025」(李克強首相が主導する製造業の発展戦略)、まちづくり、歴史的な住宅のリフォーム＝現代サービス業など)。日中企業間での提携のチャンスは大きいとの認識が示された。

○他方、中国側からは、日本企業は中国の事情・ニーズを配慮し、これに適したソリューションをとるべきとの意見も出た。競合相手としてではなく、協力関係を構築することが必要であり、さもないと欧州企業に負けるという指摘が出された。

○Win-Winの関係構築に向け、関経連としては今後、毎年、本交流会を継続開催していく予定。

②政府要人との懇談

◆友好団体

- －中国日本友好協会 唐家璇会長 (元国務委員)

◆政府

- －外交部アジア司 孔鉉佑司長
- －商務部アジア司 宋耀明商務参事官

◆日本大使館

- －伊藤公使(次席)、林経済部長 他



唐家璇 中日友好協会会長との会見

訪問先	主な発言内容
中国日本友好協会	○関経連は中日関係が困難な局面に陥ったときにも様々な形で友好交流を続けてきた。長年にわたるそうした精神に心から敬意を表したい。 ○中国経済は下振れの圧力に晒されているが、成長の一過程であり、安定成長と構造改革、改革開放を進めることでくい止めることができると考えている。
外交部	○経済は今、複雑な局面に直面している。アジア経済の下降圧力を食い止めるために、中・日・韓の重要性が増している。中日関係の改善のためにも経済問題は重要な要素である。 ○中国では9月3日に70周年記念行事を予定しているが、平和を守るとの信念に基づくものであり、反日を意図するものではない。
商務部	○中国経済は「新常态」のもとで安定的な成長を実現するために改革開放と構造改革に取り組んでいる。国内地域の発展格差、産業構造改革と環境・公害対策の必要性、高齢化社会への対応など課題は多い。 ○関西の経済界には、自由貿易試験区を活用した新規ビジネス、環境・省エネ分野およびアジア地域のインフラ整備での協力、社会保障・介護ビジネスに関する知見を期待している。アジアインフラ投資銀行(AIIB)への日本の参加を期待する。

## 《参考》日中企業家交流会 開催概要・プログラム

**主催** 中国日本友好協会、(公社)関西経済連合会  
**後援** 在中華人民共和国日本国大使館、中華人民共和国駐大阪総領事館  
**協力** 中日企業交流中心  
**日時** 2015年7月14日(火) 14:00～18:00  
**場所** 長富宮飯店 2階 「月季」「茉莉北」  
**言語** 日中同時通訳

### プログラム

**主催者挨拶** 王 秀雲氏(中国日本友好協会 副会長)  
松下正幸氏(関西経済連合会 副会長)

#### 【1部】ディスカッション「グローバル時代における経営理念の継承と人材育成」

事例紹介:

大澤 英俊氏(パナソニック㈱ 常務役員 中国・北東アジア総代表)  
「パナソニックと中国 ～歴史に遡る～」  
小林 洋一氏(伊藤忠商事㈱ 顧問)  
「100年企業を創る普遍的な理念」  
山本 泰久氏(汇思集団 営業総監)  
「労働派遣法施行対応の『構内請負』実例」  
岡野 進氏(大和総研㈱ 専務取締役)  
「グローバル時代に対応したリサーチ人材の育成」

意見交換

#### 【2部】ディスカッション「日中企業双方における新規ビジネス、市場開拓の取り組み」

事例紹介:

王 航氏(新希望集団 副董事長)  
「量から質へー中国のビジネス環境変化への対応」  
工藤 明忠氏(大金中国投資有限公司(北京) 副総経理兼華北地区総監)  
「中国空調市場の創造」  
任国剛氏(智網智库執行総裁)  
「中国グローバル新戦略と日本企業のチャンス」  
張 晋氏(国経咨询股份有限公司 業務総監)  
「海外におけるM&Aによる日中両国産業協力と市場開拓」  
張源达氏(中国中小企業協会副秘書長)  
「中国の中小企業のイノベーションと国際化戦略」  
王志国氏(河北香河環保産業園董事長)  
「京東環境保護産業園の発展と東アジア経済への国際協力の役割」  
高井 啓明氏(㈱竹中工務店 設計本部プリンシパルエンジニア)  
「想いをかたちに 未来につなぐ～グリーン建築に込める意思」  
李中航氏(大唐西市文化産業投資集団有限公司 常務副総裁)  
「一帯一路建設における日中合作」  
陳 軍氏(上海進念建築設計裝飾有限公司董事長)  
「上海市老朽建築内装改造マーケット分析と日中協力の見通し」

意見交換

モデレーター:

真家 陽一氏(日本貿易振興機構北京代表処次長)

## 団長所感

松下 正幸  
関西経済連合会 副会長・国際委員長  
パナソニック 副会長

関経連訪問団として、中国の中央政府機関を訪問するのは、2012年7月に当時の習近平国家副主席はじめ国家指導者・政府要人と面談した時以来3年ぶりであった。2012年後半以降、日中政治関係の悪化もあり、当会として対中交流事業を思うように進めることをできなかった。そのような環境下、日中両国間は、企業交流はもちろん、文化、スポーツ、観光分野では草の根交流も活発であり続け、今や両国は互いに不可分な関係となっている。関西経済界は、日中国交正常化前の1971年に訪中代表団を派遣するなど、歴史的にも両国の関係強化に資する役割を果たしてきた。

そして今回、あらためて、経済団体としてだけでなく、一経済人として、日中関係の改善、友好強化に貢献したいとの思いで中国を訪問した。

外交部、商務部など中国政府、そして中日友好協会の唐家璇会長は、懇談の中でどのようなスタンスで公式発言をするか注目していたが、総じて友好的であった。中国政府は経済を「量から質」「投資主導から消費主導」「イノベーション重視」へ転換し、「新常态(ニューノーマル)」と称する安定した経済成長を実現するため、関西・日本経済界との連携をこれまで以上に強化したいとの思いが懇談の中でひしひしと感じられた。今回参加していただいた団員の皆様とともに、それを実感できたことは、同訪問団の成果のひとつである。

また、関経連として、初の試みであった日中経済人の対話の場「日中企業家交流会」では、率直な意見交換ができ、第一回としては良いスタートを切ったと感じている。日中関係は、時折、良くなったり悪くなったりするが、困難なときこそ、経済人が率先して打開すべきである。そういった意味からでも、この「日中企業家交流会」は来年以降も地道に継続していきたい。次年度は、今交流会の議論を踏まえ、日中経済界双方が課題を共有できるテーマごとに、議論を深めるようにしたいと考える。例えば、交流会でも組上に載った「高齢化社会への対策」「まちづくり」「観光」などの分野がテーマの候補になってくるのではないだろうか。今後、国際委員会を越えて会員企業とともに知恵を出し合い、来年の交流会開催に向けた検討をすすめていきたい。

最後に、今回の訪中団の企画、運営をしていただいた事務局の皆様にも、この場をお借りし、感謝申し上げたい。